【将来像】アンケート結果に対する委員意見（まとめ）

資料７

地域振興関係

■キャッチフレーズ
・都市に近く、豊かな自然環境がしっかり守られた便利な「北播磨」
・脈々と築かれた歴史と文化が輝く魅力いっぱい「北播磨」

■地域活性化・地域づくり（住みやすさによる交流）
・豊かな自然や人との繋がり等、住みやすさをアピールした地方都市
・30 年後も変わらない自然豊かで歴史ある北播磨と、新しいテクノロジーに支えられたより住みやすい北播磨の共生
・Society5.0 時代は、自然環境と人の繋がりの両方の良さや地元で仕事する環境づくりを大事にしながら、北播磨地域を創るには「戻って来たくなる」、「住んでみたくなる」北播磨のイメージが必要
・新たに生み出される職種・職業によりリモートワーク・ウェブ会議などが進み、地方分散により北播磨地域が選ばれるために、各世代の受け入れ可能な環境づくりと、居住する人々の交流を深める、元気な地域づくりが必要
・多様な働き方、ライフスタイルが普及。「自然豊かでほどよい田舎」の地域が移住者に選ばれるとともに交流人口が増加
・新たなワークスタイル（リモートワーク・web 会議）の進展により、地方への人の流れに伴い北播磨地域も暮らしやすさが選ばれ、UJI ターンにより多くの移住者と地域の交流が深まりにぎわいのある「北播磨」になっている
・ある経済学者の統計によると 10~20 年程度で約 47%の仕事が自動化され 2030 年迄には週 15 時間程度働けば済むとあり、将来子供達が地域にとどまる方法としてゆとりある時間、心豊かに暮らせる魅力あふれる北播磨、ほどよい田舎が最適になる。新しいライフスタイルの構築が求められる
・自動運転等テクノロジーの発展により交通インフラが充実し交流が拡大するなど、今ある不便さが解消され自然豊かな魅力あるまち
・新しい交通システムや働き方の多様化によるこれからの地域のありようへの視点には夢が持て、文化の継承や人の交流に期待できる
・長期でなく５年、10 年で自由に出入りできる循環できる定住をもとにした住まい方、こういう流動性が受け入れられていくかが、将来の農村地域で求められている。

■交流インフラ
・地域住民のための交通インフラの維持と観光や交流事業を活発にするための、都会との交通の利便性の向上

■歴史文化
・観光のための交流資源を、公的な平和教育、自然教育、歴史教育や社会教育に生かし、公的な集団を集客するために、５市１町の一体感が重要
・住んでいる地域の歴史・文化・特色を子供達の学校教育に組み入れる。北播磨独自の教育があっても良い
・「若者」「交流人口」「体験」をキーワードに歴史的文化的価値のある地域資源と５市１町の特徴を活かした「北播磨の一体感」の創出や、広域連携による外国人を惹きつける新たな「北播磨の魅力」の創出

暮らし関係

■キャッチフレーズ
・災害が少なく温暖で暮らしやすい安全・安心「北播磨」
・外国人との共生により、みんなが］北播磨人として多文化共生できる社会づくり
・自然が豊かで子育て環境が充実し、人と人とのつながりを大切にする「北播磨」
・子育てがしやすい自然環境、人との繋がりのある「北播磨」

■自然環境
・自然豊かで子どもや高齢者、外国人全ての住民が心豊かに生活する健康都市
・神戸・大阪などの都市住民が羨む自然環境
・里山保全、河川整備等、自然環境を整備し、自然災害が起こりにくい安全なまち
・「オアシス」として都市住民に癒しを提供する場（交流人口の拡大）だけでなく、リピートして訪れる「サードプレイス」としての位置付けも付加してはどうか。都市住民が北播磨のコミュニティとの緩やかにかかわり、地域住民との創造的な活動につながるような場の提供を通じて関係人口づくりの要素も盛り込んではどうか。

■子育て・教育・健康福祉・少子高齢化等
・子どもや高齢者、外国人全ての住民が心豊かに暮らす健康都市
・子育て支援は、行政の力・協力が必要

■防災・安全安心
・安全安心な北播磨の構築
・世代間交流が広がり子育て、高齢者の見守り等を地域ぐるみで支援できる安全安心なまち
・里山保全、河川整備等のハード面、防災訓練などのソフト面ともに充実し、自然災害が起こりにくい安全なまち

■多文化共生
・外国人もみんなが北播磨人として地域の担い手となり、多文化共生できる社会づくり
・世界と触れ合う交流が充実した人づくり

産業関係

■商工業・雇用
・若者・高齢者・女性・外国人全ての住民が活躍できる企業誘致や、域内外からマネーを取り込む第３次産業の起業、売上・雇用の創出へのチャレンジの推進による次世代への地域づくり
・企業誘致が進み若者、高齢者、女性、外国人全ての住民が活躍できる元気な産業が息づく北播磨
・「人とのつながり」は北播磨の魅力の１つであり、将来に伝えていくべきものでもある産業関係にも入れたらよいと考える
・北播磨地域では若者がリアリティのある実践や経験を通して手応えを得ることができ、若者が本当に挑戦して失敗できる場所であれば、地域外にも誇れるのではないか。そのような取組みで若者が本気でチャレンジできる場となるような、何か地域のコンセプトを打ち出せないだろうか。
・北播磨地域内・外の人たちが一緒になって知恵を合わせて、北播磨の社会課題に取組めるようなことができる場所があればいいのではないか。地域内とはまた異なるノウハウを持った地域外の人が参画し、地元の若者などとの協働を通して、将来を担う人材育成にも貢献する。そうした土壌づくりは今後の地域資源となっていくのではないか
・女性が活躍する場(職)がある地域

■農林水産業
・山田錦等ブランド力を持った特産品を生かした農業の活性化と、食と農に関連する高付加価値産業（加工にとどまらない）の創出
・北播磨地域は農村部でありながら都市的な生活様式。急激な技術革新、デジタルトランスフォーメーションが進展し、生活，自然，産業等でテクノロジーをうまく活用し応用が必要。農村の多様な土地利用を新技術で適切に維持管理していくためには、これまでの役割を新技術で代替する検討の進展が望まれる。

■IT テクノロジー
・携帯の電波、Wifi ネットワークなど生活必需品が変化している中、整備する必要がある

地域振興関係「将来像」

	アンケート結果に対する委員意見
観光交流・歴史文化	**〇資源活用の創出** ・従来のような私的で家族単位の娯楽的要素ではなく、公的な集団（例えば学校・社会サークル・市民セミナー等々）の訪問地として教育・学びの要素での呼び込みなら、その資源を豊富に持っていることが、アンケートからも読み取れた。平和教育・自然教育（自然体験、農業体験）・歴史教育・社会教育（社会科見学）に資する各種資源・環境・施設がある。これが、いずれ私的で家族単位の娯楽的要素の観光・レジャーにもつながる。また、そのためにも、５市１町の特長を活かした「北播磨の一体感」という必要性の指摘は重要である。 ・祭りの力で人と地域の新たな繋がりの創出もあるのかなと感じた。 **〇北播磨の魅力** ・交流人口を増やすにはまず北播磨管内で相互交流を増やすこと。 次に管外の神戸か大阪に的を絞り実際にプランを練って北播磨の魅力を磨き上げていく。インバウンドの観光客向けの北播磨の魅力をどこかに的を絞り実際に日本在住の当該国の人にアドバイスを貰いながら時にはゲストで招いて具体的に何が喜ばれるか関心を呼ぶかやってみることである。田舎も素朴な日本の日常生活も山登りやハイキング、里山体験も郷土料理や家庭料理も優れた観光資源になりうる。豊かな自然とそこでの生活が大きなテーマとなる。インバウンドは市町単独より北播磨広域で周辺と連携しながらやれば奥深く興味深いプログラムが提供できるのではないか。 ・現状を肯定的に捉えたうえで、地域の強みを伸ばしていきたいということが望まれている。 **〇５市１町を繋いだ歴史** ・三木市の別所家と多可の存田家の戦い。西脇市の黒田家と三木の別所家・多可の存田家の戦い。法道仙人建立にまつわる寺院　加西市・加東市・西脇市・多可町など。赤穂浅野家（忠臣蔵）は加西市・多可・加東市・西脇市も関係。北播磨を計測した伊能忠敬などなど、各市町単独の歴史文化でなく、北播磨全体に関係する歴史はたくさん存在する。その面では市町単独での観光資源をプログラミングするのではなく、北播磨全体にまつわる深堀した資源提供が新しい観光交流人口をひきつけるポイントかもしれない。 **〇観光･歴史文化を守る・都市部にない良さを守る** ・人口減は減収ということでもあり、地域活性化には痛手となります。適度な成長が望まれるところですが、一方では自然豊かでありつつ、都市部から適度な距離にあるということのメリットも大きく、開発しすぎないで豊かさを保つ事ができるバランスが大切だと思われます。観光･歴史文化を守るための整備をしつつ、都市部にない良さを守っていく必要があるのではないでしょうか。 **〇キーワード「若者」･「交流人口」･「体験」** ・地域観光の中で、持続可能な地域観光資源の実現と定着を望まれている意見が多いように思う。キーワードとして、若者、交流人口、体験。これからの観光にむけてのまちづくりのポイントなのかと感じる。地域振興＝地域観光＝地域活性化⇒地域づくりに繋がる意見も多くあるように思う。
地域活性化・地域づくり	**〇地方都市化** ・自然環境の保全以外は、都市化（都市と同じような環境）を望んでいる様が見える。 ・北播磨地域として地方都市としての魅力を十分に発揮し、持続してほしい。 ・「都市化」を望む回答が目立つ。現在の都会と同質のものを目指すのではなく、今後の地方の発展は、これまでの都市化志向とは異なる視点・観点での展望が必要であろう。そのことを地域住民に理解してもらうための働きかけや意識変革の啓蒙などが、今後 30 年を見据えたビジョン策定と平行して行う必要性が感じられる。 **〇住みやすさ** ・自然環境をまもりつつ，活気があり，利便性のある生活の維持を期待している。 ・30 年後の北播磨地域に関して、全世代において「住みやすさ」を求めていると推察する ・全年代において 30 年後も定住する意思が多いため、住みよい地域であると感じられていることがうかがえる。 ・自然環境が豊かで、便利な田舎ということを望んでいる人が多い。 ・年齢が上がるほど、心の豊かさや自然に恵まれた環境の中で、ゆとりのある生活を重視。 ・将来的に人口は減少することを認識した上で、豊かな自然や住みやすさ、活気の維持を期待する意見が多い。また、そのためには、産業や交通インフラの維持向上が必要と捉えていることが窺える。 ・北播磨地域に暮らしてよかったと思うこととして「自然の豊かさ」を挙げる回答が多い。今後も、北播磨の自然環境を守りながら、活性化に向けて取り組む必要がある。 **〇北播磨地域のメリット** ・コロナ禍で新しい生活様式や働き方が見直されつつある時代に、人口密集でないことは逆にメリットかもしれません。若者が感じている不便さは確かにあると思いますが、Society5.0 時代を活用できる北播磨を創ることができるのではないでしょうか。交通インフラはひとつの課題なので、高齢化社会が進むことも踏まえて、整備していくことが地域活性化につながると思われる。 **〇「人」とのつながり** ・10・20 代は「人」をキーワードとする意見が多く、関係人口や交流人口の増加、地域のソーシャル・キャピタルを重視している。一方で、自身が本気で将来的に地域に残ることを想定した当事者意識からの意見は多く見られず、若者らしさとアンケート調査の限界がある。 →地域ビジョンの会議・ワークショップフォーラム等で、若者が当事者として参加し、気づきや考えるきっかけとなる対話に期待したい。 ・10 代は、物質的な面で生活を豊かにできる地域であってほしいと願っている傾向であるが、教育や各自治体での取組みの成果なのか、人と繋がる事の大切さを感じている若者が多い。 ・30～70 代は豊かな自然を残しつつも、若者たちが住みやすい地域、活気のある地域に 5 市一町が各々の特性を生かし、今以上に共助の気持ちを持った思いやりのある地域の意見。 **〇共助社会の充実** ・地域活性化や地域づくりが真の共助社会の充実を課題として持った地域へと変化しなければ（してほしい）ならない。 **〇人口減少** ・集落単位の地域づくりはここ数年で限界なのかなと強く感じる。世帯数で 200 以上なければ、様々な地区内の役職や行事毎に限界にきている中、空き家が目立つ時代が数年前から。そして公助に頼りすぎた時代が去り、大型の公共施設（学校や公民館）の空きが目立つ時代が今。 その中では景色や思い出はなくなるが、さらに施設の整理は必要な時代がここ数年でくるだろう。 **〇その他** ・活気あるまちとするために、人口の維持だけでなく、その年齢構成も重視している意見が多いのは共感できる。 ・30 年先の変化は若者にはイメージしづらいようだが、物心ついてから 30 年を経過している者には，過去 30 年の変化（変化したもの，していないもの）について，もう少し具体的なイメージがあればと思う。
交通インフラ	**〇交流人口のためのインフラ** ・交通インフラについては基本的に住民のためのものであるが観光や交流事業を活発にするには対象地の都会との交通の利便性があるかどうか吟味しなければならない ・自由記述の中にある「交通の便」というのは、道路整備ではなく公共交通のことだと思うが、都市部や広域の移動への記述が多いように感じる。 ・北播磨から都市部に出やすい交通と、都市部から北播磨に人を呼び込むための交通は利用者のニーズが異なる。後者については都市部の若者の価値観の変化等によるマイカー所有率の下降を踏まえれば、まずは鉄道やバスで北播磨地域にアクセスできること、いずれ駅やバス停からは IT を活用・兵庫県の中心に位置する利点を活用し、他の地域住民（例えば東播磨や阪神地域の都市部など）から行きたい場所と認識されるために、おいしい農産物と美しい田園風景のブラッシュアップや、都市部とを繋ぐ交通インフラ整備を充実し、「北播磨は交通が不便で行きにくいところ」という概念が払拭させる必要があるとのことであり、交流のための土台として、地域活性化や交通インフラ整備の必要性が窺える。したオンデマンド交通の利用ができれば「訪れやすい場所」と感じるのではないか。 **〇期待度** ・交通インフラを重視する回答が多い割に、30 代以降であまり交通インフラに関する回答が多くないのが意外である。 ・仕事と交流の両面で都市部との交通利便性向上を期待する意見が多い。一方で、人口減少下における交通インフラの在り方については、各市町の実情を踏まえつつ、広域的な検討が必要であることから、県及び県民局の広域調整機能としての役割が期待されるところである。

暮らし関係「将来像」

	アンケート結果に対する委員意見
子育て・教育・健康福祉・高齢者問題・少子化	**〇健康都市** ・ 健康都市→現在のトレンドであるが，あたらしい取組がでてきそう。 ・健康ウォーキングの取り組みなど、高齢化社会の中で、元気な高齢者を目指そう！という取り組みが各地で見られます。加西市や多可町が合同で行っている「健幸アプリ」もその一環でしょう。このような動きを「北播磨」の枠で取り組みができれば。 ・「健康都市」…いろいろな捉え方があるため定義が必要ではないか。 ・教育に関する意見が外国人からのみとなっていることからも、多文化共生を踏まえた教育の在り方が求められていると思われる。 **〇遠隔医療の推進** ・遠隔医療等(ネットなどを用いて)への期待がある。 **〇子育ての魅力ある北播磨** ・子供にやさしい地域を目指すことが、こどもが増えることにつながるとの意見には賛同するが、子育て支援施策については、各市町で統一した取組を行うことは難しいと考えられる。各市町が各々の地域特性に合わせた取組を進める中で、子育てに魅力ある地域として知ってもらえるような情報発信戦略が必要と考えられる。
自然環境	**〇自然を生かしたオアシス** ・山や河川、里山，ため池そして田畑等の豊かな自然に囲まれて穏やかに暮らしたいという人が多い。これ以上の開発は望まない。過疎化が進み空き家が増えているなかで地域活性化への対策は、自然を生かしたものが住民ニーズに沿ったものと言える。程よい距離にある神戸・大阪などの都市住民にオアシスを提供するのである。 ・住民が体験している田舎の良さを味わってもらうために県立公園での事業を都市農村交流事業に一部組み替えるなど工夫できるのではないか。 ・年齢が上がるほど、心の豊かさや自然に恵まれた環境の中で、ゆとりのある生活を重視。 ・北播磨のもつ利点として大いに生かしたいところです。 **〇自然を商材に** ・自然環境は本来地域住民のためのものと考えるが、意見の中には、都市住民との交流のための資源として捉えていることも見てとれる。地域住民のための自然と商材としての自然という異なる視点とアプローチが必要である。
防災・安全安心なまちづくり	**〇日本のモデル** ・ **防災において日本のモデルに**→ハード・ソフト共に計画的な防災まちづくりを見直すことが魅力化につながるか？ ・ 防災・安全・安心なまちづくりに対する回答が少ないことは、それだけ災害が少なく治安が良いということなので、そこを売りにしていくことはポイントになると思う。 ・ 「防災、安全安心なまちづくり」については、外国人が異口同音に述べることで、日本が誇るところである。 ・「自然災害の少なさ」の回答が多いが、本当にそうなのか？（データに基づく事実ならば魅力的である。） **〇防災意識の向上・備え** ・住民意識の問題である。30 年間で南海トラフ地震が起こる確率は 70~80%との統計がある。災害に備え過ぎるということはない。外国人も巻き込んだ防災教育、訓練が 必要。防災教育が浸透している市においても住民の意識、危機感に差が生じている。（例えば豪雨災害の対象となる川沿いの住民とそうでない地域の住民） 1000 年毎の大災害は 1000 年ごとの学びの場になる。東日本大災害で被災された方の言葉である。 又、安心な町づくりでは犯罪数は増えてないがこれも人口減少によるもので数としては参考にできかねる。 ・自然災害への備えについては、整備していく必要があると思われます。県や国との繋がりをしっかり持つことが望まれる。
多文化共生	**〇地域の担い手** ・ 多文化共生に関しては、共存していけるように、そして北播磨を担う人材にもなってほしいとの前向きな意見が多い。 ・ 「地域の活性化」については、地域における人口減少や過疎化の現状を心配してのことだと思うが、外国人数は増加傾向にあるので、共生をとおして、活性化を進めてほしいと思う。各地域の地場産業の発展を考える 10 代、20 代に活躍してもらいたい。 ・ 人口縮小社会においてはアンケートにあるように外国人も地域の担い手としてつまり移民として処遇する社会にやがてはなるであろう。また移住者も増えるであろう。これまでのように長年住んでいる住民だけを前提とした閉鎖的な社会では対応できない。移住者や移民の増加に対応して開かれた多文化共生社会の構築がかかせないがこれには時間がかかる。先を見越して計画的に進める必要がある。 ・ 日本人、外国人と区別する事なく北播磨人として共生できる社会づくり。そして外国人も北播磨地域を担う人材になってほしい。歴史文化継承のための人材づくりも必要である。1 日では成らず長い年月を要する。 **〇交流、関心** ・「多文化共生」に関して、外国人と日本人では意識関心に顕著な差が見える。学校や職場、地域で暮らす外国人と何等かの接触があるにもかかわらず、増加傾向にある外国人との共生社会に興味がないのは嘆かわしいことである。今後、日本人住民と外国人住民がいかに多くの機会で交流し、経験を共有するかが重要であると思う。 ・ 当然の結果であるが、地域住民と外国人住民の思いに違いがあり、地域の活性化や地域づくりという点は、外国人住民にはあまり関心がない。ただし、外国人住民はコロニーを持って生活をしており地域住民との交流ができていないということも言えるのではないか。外国人住民が「地域づくり」に興味を持つようになって初めて多文化共生社会が実現することにつながるように思った。 ・この設問でも「多文化共生」への無関心さが表れている。今後、国際結婚したり、永住権を取得したりする外国人が増えるということは十分想像され、今のままの考えでは、立ち行かなくなると思う。 ・地域の担い手として、ワールドワイドな発想力がこれからの担い手の必須になると思う。日本人、外国人と色分けするまた地元民と移住者を色分けする考えは、この先では通用しないであろう。その面では、学歴そのものが〇〇中卒、□□高卒、△△大卒というより、１０歳まで日本で、１４歳までアメリカで、１９歳まで韓国で、２４歳までイタリアでという学歴より多文化に触れた経験がものを言う時代になる。 〇多文化共生コミュニティづくり ・今はコロナ禍で難しいですが、外国からの人口流入は時代の流れでしょう。どううまく地域に溶け込んでいけるかコミュニティづくりが課題です。地域の担い手の一部となって頂くことは、簡単なことではないかもしれませんが 30 年先を見据えると大切な視点です。

産業関係「将来像」

	アンケート結果に対する委員意見
雇用・働き方・商工業	**〇社会的な価値創造・共創を挙げた施策** ・今後 30 年先までの過程において、域外からの工場誘致など従来型の雇用創出は期待しづらく、一方で地域内の視点や力だけでは行き詰る。グローカルな視点で北播磨と都市部との交流を促進し、社会的な価値創造・共創を掲げた施策による地域の魅力化が必要 **〇 企業誘致** ・ 各世代において「地域活性化・地域づくり」の意見が多いが、現実的な意見として、先端企業等の誘致、若者を魅了する企業の誘致、若者が働くことが出来る企業があることに期待している。ソフト面とハード面のバランスが必要と感じた。 〇広域的な取り組み ・将来的な化石燃料の枯渇を見据え、自立した地域となることが期待されているが、太陽光発電をはじめとする自然エネルギーの活用については、乱開発による公害問題等も課題となっていることから、開発規制も含め、広域的なビジョンに基づく計画的な取組が必要であると考える。 **〇 企業と連携** ・食、農、アウトドア、ライフスタイル、教育、IT 等の企業と連携したワーケションの取り組みをきっかけとして導入し、地域にとって戦略的な関係人口の創出をはかる（奥貫） **※企業にとっては北播磨の地域資源から商品・サービス開発のインスピレーションを得られることで本業へのフィードバックや地域と価値の共創によるビジネスチャンスの機会が得られる。社員は多様なライフ＆ワークスタイルや地域貢献の機会を得られる等のベネフィットが考えられる。企業の垣根を超えて価値観を共有する人材の参画も見込める。また企業関係者の滞在による消費と地元との交流を生み出すことができる。** **〇 多様な働き方、選ばれる地域** ・ 10～40 代の回答で「人」がキーワードである点。特に 10 代は「人が来る」ことに関心があり、観光等の交流人口や都市間交流等による関係人口が生み出す「にぎわい」のある地域をイメージしている。他方、50 代以上は域外との交流よりも地域内のつながりを重視する点。 →人口減少への問題意識は共通するものの、世代によってその問題の捉え方や解が異なる。未来に思い描く人とのつながりの種類・数の違いも然り。30 年後の地域を考えるのであれば、若者自身が「人が来る」ことに参画したり役割（仕事）を担ったりチャレンジしたり（学び、インターンシップ、起業等）できる現実を見ることができれば、地域での定着や U ターンによる北播磨での暮らしの選択肢が増えるのではないか。こうした取り組みは高校等で既に実施されているが、次世代の地域づくりを考えれば、内部だけでなく外部の視点でも地域を捉えながら、域内外からマネーを取り込む第３次産業の起業、売上・雇用の創出へのチャレンジ、を進めていくことが必要ではないだろうか。 ・ 急速に IT 化が進み、新たに生み出される職種・職業が出てくる。働き方改革（リモートワーク・ウェブ会議なぞ）を考えると、都市部（大坂・神戸）から１時間圏内の、自然豊かな北播磨地域は、交流人口や移住者（外国人含む）最適の場所だと思う。今後、人口減少は止められないが、選ばれる為に生活環境整備された、各世代の受け入れ可能な環境づくりと、居住する人々の交流を深める、元気な地域づくりが必要。 ・雇用は地域活性化には欠かせないものです。一方では、遠隔での就業も進むかもしれません。職種により様々ですが、どのような分野が北播磨地域性に合っているかを考えてみるとよいのではないでしょうか。（過密ではないが、都市部から適度な距離にあることなど） **〇期待される地元雇用につながる取組** ・将来的な人口減少を見据え、若者の地元雇用につながる取組が期待されている。そのためには、都市部との交通利便性確保が必要との認識が見て取れる。 ・戦略的な関係人口の増加＝地域に存在しない人材の活躍・活用による学びやノウハウの獲得、若い世代とのコラボによるチャレンジ機会の創出等の効果を見込めるのではないか。 ・域外の人材と交流し対等な関係で互いのベネフィットを意識しながら、共に社会的な価値創造（社会課題）の取り組みを小さくスタートさせる。そして中・高校生を含む若者がそれらにかかわっていくことで、これからの新たな仕事の創造、新たな働き方や生き方を地元で実現できることに気づく機会となるのではないか。
農林水産業	**〇自然環境の保護は「農」と「食」に通じるのでは** ・ ほぼすべての世代が挙げた自然環境を守る思いは、住民の中に深く浸透しており、山田錦等の農業や食（文化）にも通じるのではないか。 →今日から 30 年後までの世界、日本といった外部環境や北播磨地域内の変化をどう想定するかによるのだが、自然環境との共生、食の安全・自給率の向上、食と農に関連する高付加価値産業（加工にとどまらない）の創出、地域商社機能等の重要性が高まると考えられる。当地域には、自然環境や住民の英知といった北播磨の地域資源を生かした売上づくりを目指すポテンシャルがある と思われる。**※特色を生かせる分野だと思われます。さらに広く知らしめていくことが必要だと思います。** **〇地域ブランドの情報発信戦略** ・食文化としての維持と、都市部に近い利点を活かした農村都市としての発展を期待する意見が多い。山田錦をはじめとする地域ブランド商品を広く発信していくための情報発信戦略が必要と考えられる。
ITテクノロジーの進歩	**〇 テクノロジーの発展、今ある不便さの解消** ・ 北はりまのよさは十分に認識しつつ、今のままでは十分に満足できないという見方も多いように思いました。特に、今ある不便さに対する改善への期待は大きいように思います。どのように北はりまのよさを活かしつつ適度に便利さを加えていけるかがポイントかもしれません。例えば、「出前が来ない」などの指摘は新しい技術が補ってくれるかもしれません。それらを導入するにはどうすればよいか考えてみてもよいかもしれません。 ・ **自然を残したままの**テクノロジーを発展→新しい自然保全の形がありそう。**※キーワード** **無人のデマンドタクシー**→もう空を飛ぶ時代になるので，現実味がありそう。密でない農村環境が功を奏するか？ ・ 尖った回答と感じたのは「**自動運転の車～いろんなところに行ける**」、「**ＩＯＴの先進地、無人タクシー**」、「**在宅勤務をしながら自然を楽しむライフワークの定着**」の 3 点。※30 年後を考えるには必要な視点。 今ある施策ではなく、新たな価値を生み出す展望であり、自由な移動手段の確保や充実したライフワークの実現にはとても魅力を感じます。 **〇ＩＴテクノロジーの教育への活用** ・外国人住民の意見として、ＩＴテクノロジーの教育への活用があげられており、多文化共生のツールとしてのＩＴテクノロジーの活用が期待されていることが窺える。

【課題】アンケート結果に対する委員意見（まとめ）

地域振興関係

■交通インフラ

・交通の便は都会に「出て行く」ためのアクセスだけでなく来てもらうため、居住地と仕事の利便性のためとの観点が重要。働き盛りや若者の定着と回帰・移住などに繋がる

・全世代で「交通インフラ」を 30 年後によりよくするべきとの意見に対し、県では東播磨道の道路整備や、ひょうご小野産業団地の開発等、将来的に新しい人・モノの流れを生み出すことが期待できる

・交通インフラの改善は、地域の活性化にもつながる一方、人口減少で経済的成立し難い。現在の交通網を軸に 5 市 1 町が連携して取組む必要や、企業等と連携するなど新しい発想も必要。多少不便であっても、自分たちが「乗って残そう」という意識の高揚が不可欠。

■地域活性・地域づくり

・「ほどよい田舎」と「住みやすさ」が関連しているのか（していないのか）を明確にすることで、定住人口の増加だけではない地域の戦略（関係人口増や地域の価値創造に寄与）を考えられるのではないか。

・「戻ってきたくなる」「住みたくなる」北播磨の具体的なイメージ整備

・疎住時代の地域のあり方を検討する

・都市部からの交通アクセスの利便性、生き生きとした自然環境、移住者や外国人の最適な場として各世代受入れ可能な環境づくり

・食料・エネルギー・地産地消・職住近接を地域内で見直す

・北播磨という一体感は今のところはなく、各市町の個性を活かしたビジョンが求められており、市町が作るビジョンと北播磨地域が作るビジョンの違いや限界を暗示している。例えば、北播磨南部と北部のように目指すべきビジョンを分ける方が適切と考えられ、北播磨地域として一括りにした場合、総花的になってしまう懸念がある

・自然環境の保全、都市化・都会化、産業の育成・活性化、企業誘致などによる就労場所の確保、交通インフラ・商業施設・娯楽施設等の充実による生活の利便性向上、等々の一見共存することが難しい課題にどのように応え、取り組むか。

・地域の発展と自然環境とのバランスがとても難しい。問題解決に携わる人材育成も必要。

・都市化を望む回答が多く、雇用や働き方の変化のテレワークとバケーションを合わせた造語としてのワーケーション等を取込む地域が北播磨であることをアピールする要素を整理し、地域住民へ理解してもらえる努力が大事。

■観光交流

・多様な働き方、ライフスタイルに対応するには、都市部の企業等と連携した取り組みを導入するなど、地域にとって戦略的な関係人口の創出が必要。そうした連携やワーカーの参画を生かして地域課題や価値創造への取り組みを通じて地域の将来を担う人財育成を図り、そのノウハウを未来への地域資源にしていく。

・市町県行政と民間や専門機関が一体になり、広域で深みのある観光政策を推進する体制を整備し、観光産業を地域活性化の柱とする。

■歴史文化

・「The 北播磨」と胸を張れる地域資源を見つけ、5 市 1 町が連携して可視化していくことで、交流人口の増加や若者が帰省したい魅力につなげるとともに、次世代へ継承していく

暮らし関係

■自然環境

・「自然・環境」保護は地球温暖化に影響する重要課題で、すべての人に対する教育が必要。

・豊かな自然環境に誇りを持ち、大切に守っていきたいという現在の住民に共有された思いを、今後子どもや域外の人にも伝わるよう、その意義と価値を言語化、可視化してはどうか

・自然・環境を保護しつつ暮らしと経済をどのように両立させ持続していくのか、どのような地域社会をどのように創造していくのか、北播磨の挑戦を打ち出してはどうだろうか。

■子育て・教育・健康福祉・少子高齢化等

・子育て支援は行政の力、協力が不可欠

・子育てに関する施策を打ち出して、北播磨にもっと住んでもらう、又は流出を防ぐようなことができないだろうか。

（教育）

・山田錦をはじめとした北播磨地域の特色についての学習の必要性

・教育のグローカル化と併せて戦略的な IT 環境の整備（ハード・ソフト）をセットにする。

・ネット環境を整備して教育のグローカル化を進める場合、北播磨から出ていく必要がない反面、北播磨に残る／訪れる理由が薄れる可能性もある。地域内外の人から見て、北播磨でリアルに学ぶ＋αの意味づけ・付加価値が必要である。

・地域社会で活躍していける「グローカル人材」の育成。低迷する地域経済や高齢化・過疎化が進む地域社会といった、さまざまな課題を解決していくために、世界的な情報や技術を取り入れて先導していくことができる次世代リーダー的存在の育成。

■防災・安全安心

・甚大な自然災害が少ないという安心感から、防災意識が低い

・里山保全、河川整備等は行政の力、協力が不可欠

■多文化共生

・日本語教育や医療通訳、互いの文化や生活習慣を理解する機会など多文化共生のための環境整備の充実

・外国人が「観光交流・歴史文化」をあまり選択していないのは、技能実習生や就労者はそのソースを知る術がないということ、言い換えれば、日本人が情報提供をしていないのではなかろうか。多言語化した資料は多くないので、やさしい日本語で発行する、または、日本人から地域のイベントへの参加を促すなどの努力が必要

・通訳翻訳分野で活躍できる外国人住民を育成し、訪日外国人の対応や、SNS で海外へ北播磨の情報発信を展開し、地元の産業の担い手が少ない現状を踏まえ、関心のある外国人に繋いでいく。リーダーの育成では、日本人とともに外国人リーダーも育成して、ともに汗をかくという素地を作ることが大事。

・地域住民の多文化共生に関する関心度を高める必要がある。

産業関係

■商工業・雇用

・人口減少に伴う労働力不足を外国人労働者で補う図式が変わらない以上、外国人労働者の雇用環境の改善を図らなければ、地域雇用の維持は将来的に困難になると予測される

・雇用関係をより良くしたいと思う世代が、60 代に多いのは、再雇用の場として地元に需要があれば良いと考える人が多いのではないか

・地場産業の新たな魅力を生み出し雇用を生み出すには、新たな手法による売上げづくりが必要。そのためには、技術を生かしつつ既存とは異なるマーケットで勝負できる、あるいは新たなマーケットを作り出すような時代に合った付加価値のある商品、サービス、販売の戦略が重要ではないか。

・雇用環境の安定への取組みが必要ではないか。

■農林水産業

・近未来にもっとバリエーションがだせる領域である「食」の可能性を追求。又は北播磨ブランドの特産品がほしい。

・活性化策としてどの産業に取り組むかが大切であるが、農業がふさわしいのではないか。・北播磨は古代より農業で繁栄してきた地域である。域内には県の農業技術研究所や農業大学校、神戸大学農学部農場、県立播磨農業高校など農業機関が多く存在する。食料自給率７％の国で農業振興に取り組む意義は大きい

・具体的な農業振興方策①農業の活性化策として、都会人の憩いの場所や農村や里山などを有効に活用したアグリーリゾート創設。②有機農業を中核に位置づけ、有機農業の学校や実習圃場を設け、体験滞在型の農業体験を提供。③食料自給率の向上。播磨平野をはじめ海・河川や山に恵まれた地域特性を生かした安全で良質な食を提供。

・農地、家屋を含む住宅地、公共的な場所等、維持管理のあり方。

・社会的な価値創造・共創を掲げた地域の魅力化が必要ではないだろうか（現在の文脈では SDGs 等の大義の共有）。多様な働き方、ライフスタイルに対応するには、都市部の企業等と連携した取り組みを導入するなど、地域にとって戦略的な関係人口の創出が必要。そうした連携やワーカーの参画を生かして地域課題や価値創造への取り組みを通じて地域の将来を担う人財育成を図り、そのノウハウを未来への地域資源にしていく。

■IT テクノロジー

・北播磨で IT が学べるカリキュラム「屋外×IT×教育（若者）×ゲーム感覚，ビジネス」などいくつかの既存概念を組み合わせた、農村らしい魅力創出は可能か。

・北播磨地域外から大学生をバーチャルなキャンパスやプログラム提供などで工夫はできないか（外国人を含む）

・雇用、働き方に関する意見が世代間で認識が大きく異なるのは、新たな学び方（リモート、リカレント、AI 人材）、働き方（リモート、フリーランス、副業、パラレルキャリア）、生き方（婚姻、人生 100 年）など「新たな変化によって北播磨地域がどのような状況に直面するのか」という視点が必要

・新しい交通システムや働き方の多様化による、地域産業の今後のイメージを豊かにしていくことが課題。

・IT に関する整備（ハード、ソフト）に関しては、やや具体的な時期と内容を含むビジョンが必要ではないだろうか

地域振興関係「課題」

	アンケート結果に対する委員意見
観光交流・歴史文化	**〇交流人口の増加** ・交流人口を増やすにはまず北播磨管内で相互交流を増やすこと。 ・北播磨管内での交流を活発化し、進んだ地域が先駆的に取り組んだり、また広域的に取り組みを行うことで観光資源も豊かにしたりすることができるのではないか。 ・全国的に人口が減少する中で、賑わいを維持するためには移民や移住者の定住人口を増やすのと、交流人口の増加を図ることが考えられる。移民やインバウンドの観光となれば国の施策の動向と誘致先を何処に絞るのか、また担当部局の設置など計画的な取り組みが求められる。このことを視野にまずは北播磨管内での交流を活発化し、進んだ地域が先駆的に取り組んだり、また広域的に取り組みを行うことで観光資源も豊かにしたりすることができるのではないでしょうか。 **〇胸を張れるものを見つける** ・「The 北播磨」と、これぞというもの（例えば「姫路城」のような）が指摘されていない。北はりまの特質について胸を張れるものを見つけていけばいいのではないか。 ・何をするにもまずは学習が必要である。目的を絞って北播磨をもっとよく知ることから始めればどうでしょう **〇次世代へ継承するために** ・30 年後には中心となる現在 20 代～30 代の人達があまり関心無い様に思われる。今、次世代へと継承していく手段を早急に行政とも連携を取りながら設ける必要があるのではないか。 ・全体的に自然環境、歴史文化の良さ、大切さを理解し、残したい思いですが、その残すための行動、中心となる人材育成が必要。また市町→県→国への行政のパイプ役、協力、支援等が不可欠である。 ・活躍の場を与えられていない、10 代～30 代がたくさんいる中で、おしこめられている感が強いのではないか。無関心ではなく、関心から排除されているようにも感じる。次世代へ継承する場合、1 番の問題は現世代の固執である。現世代が次世代へ「渡す」こと、そして「見守る」ことも大切なことだと思う。 ・観光資源は発掘することも大切ですが、事業となれば観光用に磨きをかけたり、新しく創り出したりすることもしなければならない。 **〇対象となる若者とは** ・若者は北播磨地域に限らずこの地に魅力を感じた人々を対象にしてほうが充実するのではないでしょうか。 **〇地域資源を可視化へ** ・歴史や伝統に関わる文化・遺産が整備されていない指摘にはヒントがあるかもしれない。可視化されていない、知られていないことが、今後へのモチベーションが上がらないことにつながるかもしれない。 （10 代の意見には「個性が薄い」意見もある） ・観光や交流のツールとなる歴史・文化について可視化できておらず、専門家の知識どまりで PR の仕方が課題。五市一町が連携して価値を高める工夫が必要ではないか。 **〇若者が帰省したい魅力とは** ・北播磨地域には若者向けの娯楽施設が少なく、10 代の回答者からは、「観光したいと思わない。帰省したいと思う魅力も少ない。」という意見があり、若年層の流出を抑制する対策も必要である。 **〇効果的な情報発信戦略** ・多くの歴史遺産が各市町に散在して、一体的にアピールできていないという意見については、単純に各市町の資源をとりまとめるのではなく、ジャンルを絞ってとりまとめるなど、効果的な情報発信戦略が必要ではないか。
地域活性化・地域づくり	**〇北播磨の良さを具体化すること** ・皆がイメージできる北はりまのよいところが、もっと具体的にイメージできるようになるような整備が、「戻ってきたくなる」「住んでみたくなる」北はりまのイメージにつながる。 ・管内の人の目に加えて、調査目的に合わせて、対象とする外部や外国の人の目から見た調査を行うことが欠かせません。なぜこのように魅力のない地域と思われるのか。否定的になるのはなぜか。どうすればよくなるのか。心当たりを探ってみることは大きな力になるでしょう。 **〇今後の地域のあり方とは** ・個性が薄く，観光したいと思わない。帰省したいと思う魅力もない。一部の人間のみ郷土愛が強く…将来もこのまちに残ろうと考えている人は少ないように感じる。 →一見ネガティブな意見であるが，今後の地域のあり方を示唆しているかもしないと思うと興味深い。 ・若い世代も年を重ねることで、一旦気持ちが離れても戻るときがくるかも知れない。大人が「よさ」を伝えていけばどうか。 ・今後の地方の発展は、これまでの都市化志向とは異なる視点・観点での展望が必要であろう。そのことを地域住民に理解してもらうための働きかけや意識変革の啓蒙などが、今後 30 年を見据えたビジョン策定と平行して行う必要性が感じられる。 ・これまでは高度経済成長期に蓄えてきた親世代が子ども世代を支えてきたがこれから社会の流れを諸に受け止めなければならない。農村地域は一層疲弊すると考えるのがよいのではないか。このような現状を基に今後を展望してはどうでしょうか。 ・神戸大阪に近く豊かな自然に恵まれた北播磨の立地を考えれば、北播磨に求められるのは都会生活で疲れた心身を癒し人間性を取り戻すための場所ではないでしょうか。バーチャルな世界を離れ自然回帰する場所でもあり、人情豊かな人間関係がストレスを洗い流してくれるでしょう。その為に豊かではあるが人の手の入ることの少なくなった森林をより安全で親しみやすい里山として大規模に整備し森林に親しみ都会では忘れていた、ゆったりとした時間の流れと新鮮な空気を味わって貰う。森林作業を体験したりして田舎の生活を過ごしてもらう。また農家民宿や農作業の体験、農薬や化学肥料を使わない農産物づくりを体験したり河原で遊んだり心のふるさと田舎を味わって貰うのはどうでしょうか。規模を拡大し外国人に日本の農山村を体験してもらうインバウンド体験観光のプログラムとしても活用できる。 **〇30 年後＝人口減少後の北播磨地域の設定** ・40 代以上は自然環境、地域のつながり、若者の定住など現状維持を求める声が多く、「変化」を求める意見はかなり少ない。 →人口減少に問題意識を持っている人が多いが、30 年後の社会・経済・価値観・テクノロジーの変化、および地域がどのような状況になりうるか、というドラスティックな変化を前提とした将来像を持った意見は少ないように見受けられた。今後「30 年後の北播磨地域」をどのように設定するのだろうか。 ・「空き店舗・不用地の低コスト維持」→空き家も含めて，これからこのコストが大きく膨らむことは必至。 ・「人が減ることをマイナスに捉えすぎない。人口が減ることを甘受した地域インフラ再整備」→疎住時代の地域のあり方を議論すべき。 ・「若い人が住んでみたいと思う地域づくり」 →住宅，人間関係でどうすればよりよくなるのか検討が必要か？ （医療，教育，福祉の充実は容易に想像可能である。） ・「人口が減ることを甘受したインフラの再整備」「人が減ることをマイナスに捉えすぎないこと」どれだけの人口を前提とするのか市町によってどれだけを見込むのかは必要だが、否定的に捉えるのではなく与件として割り切り、前向きに取り組む方がやる気が出てきて前途は明るいように思う。

地域振興関係「課題」

地域活性化・地域づくり

〇地域活性化への期待

・人口減少への対応に留意しつつ地域が程よく活性化していくことを望んでいる傾向。都会になることより新しい地域の活性化についての期待があり、今ある不便さに対する改善への期待。
・北播磨で生まれ育った人が住み続けられるよう、地域活性化・地域づくりが望まれている。
・地域の誇りである豊かな自然環境と地域のつながりを今後も守りながら、北播磨地域の活性化に向けて取り組む必要がある。
・神戸大阪に近く豊かな自然に恵まれた北播磨の立地を考えれば、北播磨に求められるのは都会生活で疲れた心身を癒し人間性を取り戻すための場所ではないでしょうか。バーチャルな世界を離れ自然回帰する場所として、豊かではあるが人の手の入ることの少なくなった森林をより安全で親しみやすい里山として大規模に整備し森林に親しみ都会では忘れていた、ゆったりとした時間の流れと新鮮な空気を味わって貰う。森林作業を体験したりして田舎の生活を過ごしてもらう。また農家民宿や農作業の体験、農薬や化学肥料を使わない農産物づくりを体験したり河原で遊んだり心のふるさと田舎を味わって貰うのはどうでしょうか。
規模を拡大し外国人に日本の農山村を体験してもらうインバウンド体験観光のプログラムとしても活用できる。

〇次世代の人材育成

・特に 50・60 代は若者の定住、雇用・就業・暮らしやすさを望む声が多く次世代に期待をしているが、次世代の人材育成に関わる教育、子育て、雇用・働き方に関する回答が少ないのはなぜか？（特に教育）
　→現状に満足しているからか？これらと地域の将来像とが結びつかない（セットで考えない）からか？相対的に関心が高くないのか？従来の価値観が優勢だからか？北播磨の特徴なのか？アンケート回答だからか？
　→人口の数に目が行くのは当然ではあるが、多様性・共存の議論と併せて次世代の人材／人財像の議論をすることは可能だろうか？

〇持続可能なまちづくり

・小野まつりやそろばん、浄土寺といった、小野市の誇りとして後世に繋げていきたい伝統・文化が挙げられている。重要な生活インフラである医療センターや公共交通についても、将来に安定的な状態で引き継げるよう、持続可能なまちづくりを進めていくことが重要である。
・まちづくり構想の再考（ハード面の整備のみに終始している）という意見について、将来的な人口減少を見据え、公共施設等のスマートシュリンクも必要である。基本的に、各市町の施設の在り方については各市町の方針に基づき決定されるべきものであるが、国営・県営施設等で、同種の役割を有する施設がある場合は、広域的な視点での検討も必要であると思われる。

〇環境整備の充実

・若い世代は、観光や人の賑わい、交通インフラの充実を望んでいる。
・自然豊かで生活環境が整備された、各世代の受け入れ可能な便利で過ごしやすい環境と、居住する人々の交流とつながりを深め、元気な地域になってほしい。
・30 年後は、少子高齢化・人口減少を念頭に、北播磨地域としてやるべき事、各市町がやるべき事、地域活動としてやるべき事を協力しながら、早急に枠組づくりと、調整機能のある組織づくりを進めていく必要がある。
・人口減少は止められないが、選ばれる為に生活環境整備された、各世代の受け入れ可能な環境づくりと、居住する人々の交流を深める、元気な地域づくりが必要。急速に IT 化が進み、新たに生み出される職種・職業が出てくる。働き方改革（リモートワーク・ウェブ会議なぞ）を考えると、都市部（大坂・神戸）から１時間圏内の、自然豊かな北播磨地域は、交流人口や移住者（外国人含む）最適の場所だと思う。

〇地域発展への取り組み

・食料・エネルギー・サービスの地産地消，職住近接→外に開くのではなく，内を見直す考え方
・人口減になっても、自分たちの住む地域に誇りを持って暮らすことができるよう、行政として地域づくりや伝統文化の継承を側面支援の必要がある。
・若い世代の活力維持や公共交通等の移動手段確保の取組が求められている。
・全世代において地域活性化・地域づくりが多いことから地域活性化につながる政策の必要性を感じた。
・今の人口レベルや商業施設や医療施設、交通インフラを維持することは、人口減少時代では大変難しいと思う。

〇地方創生の課題

・自然環境に恵まれ、地域づくりが活発で、気候が温暖で、大きな災害もなく、半分都会で半分田舎、人々とのふれあいこれほど恵まれた条件なのに、人口減少、若者流出、労働人口の減少、子どもの減少、すべてにおいて縮小する地域、増えるのは空き家と高齢者と放棄田や放棄林。地域創生というものの廃れる地域は数知れず。

〇ビジョンづくりに重視すること

・地域活性化・地域づくりについては全ての年代で多いためビジョンとして重視すべきであると感じた。
・人口減少による利便性の減少を補うために、５市１町の枠を越えての連携が進んでいるが、北播磨という一体感は今のところはない。各市町はそれぞれ個性があるのでそれを活かしながらのビジョンづくりが求められているのではないか。北播磨としてのアイデンティティを築く
・「北播磨という一体感は今のところ感じられない」「北播磨が一つになり、５市１町の特徴を発揮し移動人口を増やしていくこと、そのころには北播磨市が誕生しているかもしれない」これは市町が作るビジョンと北播磨地域が作るビジョンの違いや限界を暗示しているように感じた。また北播磨がビジョンをつくる意義や期待も込められているようにも思われた。
・「都市部一極集中という効率性だけを追求すると日本の良さが無くなってしまう。北播磨だけではなく、効率重視生産性だけでビジョンを掲げてはいけないと思っている。兵庫の多様な文化、地域を守ることは、日本の地域都市の在り方のモデルとしては良い地域ではないかと思う。」
　→この方の指摘はビジョンを作成するときに留意しなければならないことだ。振り返れば新自由主義のグローバリスムの流れで生産性、効率性第一が叫ばれ、勝ち組、負け組ができ、農村地域や社会や産業が壊れてきた。食料自給率 37%前後という数字が農村の崩壊を物語っている。都市と地方の格差を初め多くの格差が拡大され、放置すれば全国の 49.8%にあたる 896 の市町村は自然消滅するという。ビジョンの作成に当たってはこの大きな流れにどう対処するかということも大きな問題である。まず世の中には効率だけで判断してはいけない、できないものがあることを心しなければならない。
・27 万人を有する広大な北播磨地域においては、地勢や人口フレーム、地域特性が各市町で異なっている。例えば、北播磨「南部」と北播磨「北部」のように目指すべきビジョンを分けるほうが適切と考えられ、北播磨地域として一括りにしてしまった場合に、総花的なビジョンになってしまうのではないかと懸念する。
・「効率重視、生産性だけでビジョンを掲げてはいけない。」「多様な文化、地域を守る事は日本の地方都市の在り方のモデルとなる。」日本全体で画一化し、無味乾燥なものになりかねない。
・50 代…北播磨地域が気に入り移住してきた方が乱開発等で地域の魅力が無くなり住んでいる意味がなくなる。地域の先住者と移住者の見解の違いを精査し、未来のビジョン構築に役立てる必要があると 30 年後に北播磨地域が“ハイマートロス（故郷喪失）”にならないために北播磨地域の人達の意識改革、意識向上を切に願う
・３０年後は現在の状況が続けば、総人口減少、労働力人口減少、現在全国で５千万労働者の内２千万人が有期雇用者であるがその格差の一層の拡大、高齢化、少子化、現在最も多い家族形態の単身世帯の増加、現在１６％ある相対的貧困率の増加、現在４０代から５０代初めの就職氷河期世代の老齢化に伴う貧困率の増加、TPP の行方によっては農村の一層の荒廃、食料自給率３７％よりの一層の下落、地球温暖化による台風の巨大化、大雨被害、気温上昇による農作物の被害増加、OECD 加盟３８か国中日本の幸福度は２４位と低いが格差の拡大により低下の恐れあり。北播磨地域はこのような国内状況の中でどのような位置になるのか。これまでは高度経済成長期に蓄えてきた親世代が子ども世代を支えてきたがこれから社会の流れを諸に受け止めなければならない。農村地域は一層疲弊すると考えるのがよいのではないか。このような現状を基に今後を展望してはどうでしょうか。

地域振興関係「課題」

地域活性化・地域づくり	**〇戦略的な将来像を地域で語り合う機会はあるのか** ・◎NO.52～54 の方々の意見は他と明らかに異なり、（創造的過疎に通じる）戦略的な将来像をイメージされているようである。地域でこうした内容をオープンに語り合う機会はあるのだろうか？ ※（NO.52)行政的には、北はりま市構想だろうと思う。北播磨全体をグローカルネットとして捉えて構想化すること。とくに、教育関係をそのグローカル化することは大きな影響をもたらすと思う。たとえば、北はりま全域で学業が出来ること。学年ごとで北はりまの全く違う場所で勉強ができてもいいし・・・・、或いは、北はりま地域以外から大学生を呼び込むことが出来てもいい。それは、例えば、ネットを利用して、北はりま地域にいれば、東京の大学の授業が受けられるとか・・・そういう環境を構築すれば、都会からもこの地方にくることも多くなる、その逆もあり得る。あるいは、北はりま地域の学生が、自身は西脇市出身だとしても三木市のことも分かることにもつながっていく。地域全体をとらえるようになる。そんな構想が膨らむことがあるのではないだろうかと思う ※（NO.53）人口が減ることを甘受した地域インフラの再整備 ※（NO.54）人が減ることをマイナスにとらえすぎないこと。新たな施設を建てるのではなく、仕組みをよりよくすること
交通インフラ	**〇若者の定着・人の流れのためのアクセス** ・交通インフラや教育・医療関係の環境の整備による利便性の向上が活性化に繋がる、との意見も重要であろう。ただ、交通の便は都会に「出て行く」ためのアクセスとだけ考えず、来てもらうため、居住地と仕事の利便性のため、との観点が重要になろう。交通や教育・医療の利便性が高まれば居住地に長く居られ、働き盛りや若手の定着と回帰・移住などに繋がる。 ・全世代で「交通インフラ」を 30 年後によりよくするべきとの意見が多い。現在、県では東播磨道の整備を進められており、ひょうご小野産業団地の開発とも相まって、将来的に新しい人・モノの流れを生み出すことが期待できる。 **〇人口確保とのバランス** ・「交通インフラ」については、30 年後への期待として、自動運転や個別交通システムの充実、道路の改良などの夢が語られると、それらへの実現に向けて他地域よりも充実した新しいありようを見いだすことができるかもしれません。ただ、それは、ある程度の人口の確保とのバランスの上に成り立つとも思われます。文化の継承、地域産業への今後のイメージを作っていけるとよいと思います。多文化共生もひとつの鍵になるかもしれません。 **〇地域の活性化** ・多くの世代で交通利便性の向上を望むのは同意見である。通学、通勤だけでなくアクセスや防犯など様々な面からインフラネットワークの改善が必要だと考えられているのだと思う。 ・交通インフラに関する意見には、鉄道やバスに対する期待が大きいことが分かる。交通インフラを改善することが、地域の活性化につながることになる。 ・どの年代でも「交通インフラ」の整備を挙げている。公共交通離れによる廃線などが心配である。しいては、過疎化に拍車をかけることになるのではと一抹の懸念を抱いている。 **〇課題解決に向けて** **・交通インフラの整備については、鉄道の高速化や都市部までの移動を１時間以内になど、便数の維持・増加だけでなく、所要時間の改善も期待されていることが窺える。将来的な人口減少を見据え、駅数の見直し等も必要ではないか。** 【５市１町の連携】 ・鉄道やバス等の交通手段の利便性の向上を望む声があるが、これからの人口減少で経済的に成立するのは難しいと思います。高齢者の免許返納等に係る新たな移動手段を考える必要もあるのでは。5 市 1 町で地域差等があるためそれぞれの連携も必要と思われる。理想はわかるが現実は難しく近づけるための手段も考えなくては。30 年後には空飛ぶタクシーも夢ではないかもしれない。 ・交通インフラの整備は期待するところである。しかし、行政だけでは解決できる問題ではないので、企業等と連携するなど、新しい発想が必要である。課題解決に向けて、五市一町が連携して取り組む必要があると感じた。 ・交通インフラの整備については、北播磨の隅々まで、発展させることは難しいと思うが、現在ある交通網を軸に五市一町が連携して課題に取り組む必要があると感じた。 ・【公共交通の利活用】 ・交通インフラを継続的に維持していくためには多額の費用が発生することを踏まえ、すべての世代の共通認識として、多少不便であっても公共交通を自分たちが「乗って残そう」という意識の高揚が不可欠である。 【新しいシステムづくり】 ・新しいシステムづくりが必要。高校生以下にとっては、不便な地域と感じられるのは当然。今後、どう変わっていけるか、行政主導でないと整備が難しい部分もあるのではないでしょうか。 ・鉄道やバスなどの身近な交通手段の利便性向上が重要で、交通インフラを充実させる取組が必要である。 【現実問題】 ・都市間移動に関するバス・鉄道の充実に関する記述が多いが、今以上に充実させることは現実的に不可能ではないか。 **〇公共交通の利便性の向上** ・30 年後の北播磨地域をよりよくしていくためには、交通インフラの充実が求められていることから、鉄道やバスなどの身近な交通手段の利便性向上が重要である。また、地域活性化・地域づくりを望む声も多く、交通インフラの充実とあわせて、これらの取組が必要である。 ・すべての年代で交通インフラを課題に思っていること。公共交通を残すためには、利用しなければならないが自家用車が広く普及した今この利便性に浸っている人々の行動変客をうながすことは難しいと考えるから。 **〇高齢者の移動手段** ・日頃、公共交通を利用しないであろう 20 代～60 代の人たちが公共交通の必要性を感じていることは、自動車を運転できなくなったときの将来への不安と自由な移動の確保を重要視しているということを認識しました。

暮らし関係「課題」

	アンケート結果に対する委員意見
子育て・教育・健康福祉・高齢者問題・少子化	**〇教育関係のグローカル化** ・地域活性化･地域づくり(No52) 50代(※)…教育関係をグローカル化する。ネットを利用して東京の大学の授業が受けられる。北播磨全域で学業が出来る。動かずして北播磨から日本が、世界が見える。そういう環境を構築する。(私は小野市民です。小野市では北播磨総合医療センターを中心に “長寿の郷”と銘打って開発を進めています。病院、介護施設そして未来の医者、看護師達の大学の建設構想があります。その東側には新たな工業団地、その雇用、学生達による人口増が見込まれます。) 未来を見据えて視野を大きく広げ北播磨住民として出来る事は何か？行政に協力願う事は何か？大きく範囲を広げて考えるべき。教育関係は正にそのものである。 ※ (NO.52)おそらく、行政的には、北はりま市構想だろうと思う。北播磨全体をグローカルネットとして捉えて構想化すること。とくに、教育関係をそのグローカル化することは大きな影響をもたらすと思う。たとえば、北はりま全域で学業が出来ること。学年ごとで北はりまの全く違う場所で勉強ができてもいいし・・・・、或いは、北はりま地域以外から大学生を呼び込むことが出来てもいい。それは、例えば、ネットを利用して、北はりま地域にいれば、東京の大学の授業が受けられるとか・・・そういう環境を構築すれば、都会からもこの地方にくることも多くなる、その逆もあり得る。あるいは、北はりま地域の学生が、自身は西脇市出身だとしても三木市のことも分かることにもつながっていく。地域全体をとらえるようになる。そんな構想が膨らむことがあるのではないだろうかと思う ・社会教育では、現在でも自宅に居ながら東京などで開催される講義や講演に参加できるがもっと進展するであろう。のみならず英語であれば外国の情報もネットで身近に利用することができる。今でも放送大学やNHK学園では有料であるが専門的に多くのことが学習できるがより充実するであろう。 **〇「子育て、教育」施策** ・どの世代も子育て、教育に関する意見が少ないのはなぜか？ ・少子化が進む北播磨地域において、子育てに関する意見が少ないことに驚いた。現在の子育て施策が充実していると感じておられるのか疑問である。 ・保育料完全無料や歯科検診生涯無料などを掲げて人を集めるという意見について、各市町で統一的な取組を行うことは財政事情等を含め困難であると思われる。一方、県民局事業として実施する場合、対象者数などが各市町で異なることから、一部自治体への偏重支援と受けとられる懸念もある。現実的には、北播磨地域として目指すべき姿を示し、それに協力する市町に対し、県民局が支援する形かと思われる。 ・小中学校における外国籍児童の比率が今よりも大きくなり日本語教育が一層組織化されなければならない。併せて大人の外国人に対する日本語教育ももっと組織化されそれに合わせて日本語文化の教育も今より洗練されたものになる。 **〇外国人の日本語教室** ・小中学校における外国籍児童の比率が今よりも大きくなり日本語教育が一層組織化されなければならない。併せて大人の外国人に対する日本語教育ももっと組織化されそれに合わせて日本語文化の教育も今より洗練されたものになる。 **〇北播磨地域についての学習を** ・「北播磨全体のことがよく見えていません。あえていうなら、山田錦をもっと北播磨全体で「世界」にアピールする必要があるのではないか、北播磨全体のことを教育機関で教えるべきじゃないか。」という意見がとても興味深い。 **〇高齢者医療** ・老年医学がもっと進みその成果を活かして高齢期を元気に暮らせるようになる。高齢者にあった働き方が工夫され、より安全に働けるようになり高齢者なりの智慧が社会に還元できるようになる。 ・高齢者の健康寿命を延ばす取り組みを工夫する。健康知識の普及とともに、太極拳の普及を図る。心肺の機能の向上と筋力の向上も期待できる運動でラジオ体操のように普及できれば効果があるのではないか。
自然環境	**〇地域の発展と自然環境のバランス** ・各世代、地域活性化、地域づくりについての意見が多く（10代は都市化、交通インフラの整備等を望む声が多いが)、先端企業の誘致でデジタル化した農業・林業では環境破壊、職人技の消滅等、発展に伴う問題点も多くなると思われ地域の発展と自然環境とのバランスがとても難しい。問題解決に携わる人材育成も必要である。 〇地球温暖化に影響する課題 ・「自然・環境」保護は地球温暖化に影響する重要課題であるので、すべての人に対する教育が必要だと思う。今後も、「自然」を活かした「地域活性化」を推進していくことが望まれる。 **〇持続可能な体制づくり** ・住民主体での地域景観保全という意見については、住民の意識向上につなげる取組の必要性はもちろん、人口減少を見据えた持続可能な体制づくりをどのように構築するかが重要である。
防災・安全安心なまちづくり	**〇当たり前、念頭にない** ・各年代で、自然環境を残したいという意見が多かった。 逆に防災・安全・安心なまちづくりに対する回答が少ないことは、それが当たり前になっているということで、それが大変重要であると気づいていないと思う。 ・高齢者は「防災・安心安全なまちづくり」を記述しているが、若年層や外国人には見られない。外国人にとって日本はすでに安心安全な街であり、念頭にないのであろう。
多文化共生	**〇日本語教育、環境整備、お互いの理解** ・外国人が「観光交流・歴史文化」をあまり選択していないのは、技能実習生や就労者はそのソースを知る術がないということ、言い換えれば、日本人が情報提供をしていないのではなかろうか。多言語化した資料は多くないので、やさしい日本語で発行する、または、日本人から地域のイベントへの参加を促すなどの努力が必要であると思う。 ・多文化共生を選んだ外国人の「日本語学習の機会」「文化習慣を知りたい」「日本人と交流したい」という声は今の彼らの切実な声だと思う。30年後には、外見で出身国を詮索したり、不十分な日本語の外国人を責めたりする社会でないことを切に望む。「子育て」の環境を整えることは、他方なりとも、少子化に歯止めがかかることにつながると考える。 ・日本に住む外国人は総人口の2.24%、約283万人にのぼり今後も増加傾向が見込まれることから多文化共生の取り組みは必要である。日本語教育、日本の生活習慣の学習、生活相談、医療通訳、互いの文化や生活習慣を理解する機会など関連企業の協力も含めて充実する必要がある。 〇地域住民の関心を高める ・「よりよくなる」「よりよくする」必要があると思うことに、「多文化共生」の回答が非常に少ない。北播磨でも外国人住民が増加しており、地域住民の「多文化共生」に対する関心を高める必要がある。

産業関係「課題」

	アンケート結果に対する委員意見
雇用・働き方・商工業	**○ 多様な働き方、ライフスタイルに対応する環境整備** ・若い世代の転入・定着や二地域居住先、都会からの移住者などを望んで、活性化を図りたい意図が読み取れる。そのために、就労場所・企業誘致などの意見があるが、場所や企業を引き込む発想ではなく、現在急速に進もうとしているテレワーク・リモートワークなどと言われる働き方に対応できる環境や場所を整える発想のあり方が、今後はより有効であろう。働く場所や地域でレジャーも行えるライフスタイルは若者のニーズに合う。工夫次第でワーケーション（ワーク＋バケーション）の場を提供できる。そのための資源としての環境や施設（例えば空き家など）も存在する。少し手を加えるだけで、京阪神（に限らない都会）の働く若い世代にアピールできる要素はあるように思う。 ・「21 世紀の働き方」を北播磨に重ねてみると案外ちょうどよい地域なのではないかと思う。 ・雇用や働き方などの形態が急激に変化し、それに伴うライフスタイルも変化しようとしている現状を考えると、今後 30 年の展望を考える場合、これまでとは異なる発展の仕方を期待すべきであろう。北播磨地域は、京阪神との関係から有利な地域特性を持っていることを活かした発展の方向性が期待できるはずである。 ・雇用、働き方に関する意見：世代間で認識が大きく異なる点。 　→今後 30 年間（10 年以内にも？）でテクノロジーの進化、人　の価値観の多様化は進む（コロナ禍で既に変化が生じている）。新たな学び方（リモート、リカレント、AI 人材）、働き方(リモート、フリーランス、副業、パラレルキャリア)、生き方（婚姻、人生 100 年）など「新たな変化によって北播磨地域がどのような状況に直面するか」という視点を加えて住民の方々の意見を伺ってみたい。教育もセットで。 ・新しい交通システムや働き方の多様化によるこれからの地域のありようへの視点には夢が持てると思われ、今後の北はりま地域のビジョンにとってヒントになりそうです。文化の継承や人の行き来についての期待も伺えますが、地域産業への今後のイメージを豊かにしていくことも課題になっているかもしれません。 **○外国人の雇用** ・企業が雇用するとき大卒の日本人と外国人では不平等という意見について、日本の労働環境はもはや外国人にとって魅力的なものではないことを自覚する必要がある。人口減少に伴う労働力不足を外国人労働者で補う図式が変わらない以上、外国人労働者の雇用環境の改善を図らなければ、地域雇用の維持は将来的に困難になると予測される。 ・働き口がないと、域外に人が出て行ってしまう。雇用を確保し、北播磨に住み続けてもらうことが、「地域活性化」にもつながる。また、外国人住民が増えているのは、工業団地などで働く外国人が増えているためである。外国人が働きやすい環境を整えることも重要である。 **○ 高齢者の再雇用** ・雇用関係をより良くしたいと思う世代が、60 代に多いのは、再雇用の場として地元に需要があれば良いと考える人が多いのだろうかと思った。それに反し、若い世代に雇用関係のニーズが一見少ないように見えてしまうのは、既に市外に転出されてしまっているからであろうか。 **○ 子育て世代、女性の就労** ・但馬で活動をしている方（4 人子供がいます）が、市と地元の人たちとで協力し、赤ちゃんタクシーというのを始めています。赤ちゃんとママがタクシーの運転手をしています。女性の就労の場、ふれあい、高齢者や旅行者の足になるのでは？と感じる。
農林水産業	**○ 「食」の可能性** ・ 回答の項目に「食」に関するものが少ない。近未来にもっとバリエーションがだせる領域だと思うが。 ○有機農業の郷 ・有機農業の郷を造り都会から集客する 農薬や化学肥料を使わないミネラルたっぷりのコメや麦・野菜を育て、有機野菜のレストランのメニュー　有機野菜づくりの農業体験　有機農業の学校も開設　様々な食の講義も開設　母と子の健康食の教室 農家レストランに農家民宿 　数年前にイオンがイオンアグリという有機 JAS の農場を作りイオンやマックスバリューで有機農産物の販売を始め利用者が増えている。またコープ自然派が有機農産物を多く扱っているが急速に売り上げを伸ばしちる。 令和２年９月に農水省が出した「有機農業をめぐる事情」［ネット検索で閲覧可能］の中で日本の有機農業の耕地面積に占める割合は０．２％であるがイタリア１５．８％　スペイン９、６％フランス７，３％である。有機食品販売額は日本１８１６億円アメリカ５１９６７億円と日本の２９倍である。世界の状況から見ても日本は立ち遅れておりその意味でこれから有望である。TPP 対策にもなり潜在需要は大きいと思われる。イオンが別会社をつくり新たに乗り出した分野であり今後の有望分野と見定めての進出であったのではないかと推察する。
IT テクノロジーの進歩	**○ 農村らしい魅力創出** ・北播磨で IT が学べるカリキュラム→屋外×IT×教育（若者）×ゲーム感覚，ビジネスなどいくつかの既存の概念を組み合わせて，農村らしい魅力創出が可能か？ 北播磨地域外から大学生を呼び込む…→バーチャルなキャンパスやプログラム提供など工夫ができそう（外国人を含む）。遠隔が普通になるかも。

【残したいもの・誇り】に対する委員意見（まとめ）

地域振興関係	暮らし関係	産業関係
■地域活性化・地域づくり ・北播磨地域の各市町が一体化して典型的なプランをアピールし、継続的な広がりを持たせていけば、今後の 30 年のビジョンがおのずと見えてくる。 ・「人との繋がり」「豊かな自然環境」等、地域住民の誇りやある意味の自尊感情は、地域の活性化にとって重要な要素である ・都市部から近く、自然環境が良く住みやすい、地域住民の絆を感じるところが北播磨の強み ・「祭り」や「人とのつながり」を残したいとの一方で、敢えてなくなってほしいものが「祭り」や「村社会」の相対する意見 **■歴史文化** ・国宝を初めとする文化財を、郷土意識の醸成や、より魅力的なイメージ形成に役立て、更に地域力をアップ ・江戸京都よりも古い歴史・文化の可視化で発見する新たな資源のストーリー ・伝統・文化の継承の意見が多く、残すべき価値の有無や伝統を整理には、若者の考えが古い人達の考えと乖離しているが意外と変えていく事は可能。外部から若者をいかに増やすかという課題がある一方、地域内の若者が伝統文化の継承を含む地域の運営管理に参画できるような呼び水を掛け、地域内外の人材をスムーズに交替・継承していく考え方が必要である。 **■交流** ・「オアシス」として都市住民に癒しを提供する場（交流人口の拡大）だけでなく、リピートして訪れる「サードプレイス」としての位置付けも付加してはどうか。都市住民が北播磨のコミュニティとの緩やかにかかわり、地域住民との創造的な活動につながるような場の提供を通じて関係人口づくりの要素も盛り込んではどうか	**■自然環境** ・「自然」はどの年代でも関心ごとであり、「自然環境」を保つことは自分たち命を守ること ・自然を「残したい」「なくなってはいけない」という 10 代も多く、どう守っていくべきかを改めて考える必要性がある ・豊かな自然環境に誇りを持ち、大切に守っていきたいという現在の住民に共有された思い **■子育て・教育・健康福祉・少子高齢化等** ・医療を受けやすく、子育てをしやすくという意見について、移住・定住を考える際の選定基準として、医療体制や子育て支援に対する意識が高いことが見て取れる。	**■商工業・雇用** ・地域に人が残る為には、新たな産業（雇用）が重要 ・新たに産業を創っていくのと同時に、地域にある伝統産業でも雇用を生み出していけるように取り組みが必要 **■農林水産業** ・農業の後継者、農業の後継者確保の観点から兼業的働き方のまま組織的に統率・運営して、農家の大規模化と同じ効果を得られる方法が将来的には見込めるなど、儲からない斜陽産業だという固定観念から抜け出し北播磨再建の切り札にする

地域振興関係「残したいもの・誇り」

	アンケート結果に対する委員意見
観光交流・歴史文化	**【残したいもの】** **〇「歴史」・「文化」・「伝統」** ・10・20 代が利便性を求めるのは一般的だが、目に見える／具体的な歴史・文化・伝統を重視する回答が多いことに驚いた。幼少期からコミュニティでそれらを体験する機会（ふるさと教育）があり記憶にも刻まれているからだろうか。今後 30 年間で歴史・文化・伝統行事等は縮小・消滅の方向へ向かう可能性がある中、その過程で今の若者（定住者）がそれらの主な担い手となるには負担が大きく、「残していきたい」思いが変化する可能性があるのではないか。 ・10 代の意見は回答に深みはないが、各自の居住地域文化を伝承していきたいという気持ちはうかがえる。**ふるさと学習**の成果であろうか？ **※継続していく必要がある** ・地域の歴史・文化に携わる人の多くが伝統文化の消滅の危機感を抱いていますが、若い世代はそれらに接する機会が少なく興味も少ないため地域の財産に気づく事がありません。自然環境を守っていく、伝統文化も継承させていくと判っているのだが、どの様な行動をとるか、また行動を起こすかが重要。 ・国宝を初めとする文化財は国や県市町で登録され保護されてはいるが、郷土意識の醸成やより魅力的なイメージ形成に役立て、更に地域力をアップしたいものである。 ・地場産業、文化財を大切にしていくには、北播磨の伝統的な生活文化を３０年後の生活スタイルに合うように、伝承していく必要性を感じた。 ・70 代以上の方は歴史文化の保存を望んでおられるのだろうが、現役を引退して北播磨の良さに気づき、地域の歴史文化に興味を持つ方が多いということは、現状が良い町なのだと思う。 **〇「祭り」** ・地域の祭りは残したいという意見については、人とのつながりを深めることや、伝統行事がある時にだけでも地元に帰ってきたいという人も多いと思う。 ・70 代以上が歴史文化に関心が多いことは、後生に残すべき伝統的な祭りが多くあることがうかがえる。 **〇「播州弁」** ・残していってほしいもの“播州弁”。若い 10 代そして女性の方。30 年後には中心となる人達にはその気持ちを持ち続け守るための行動を興してほしい。 ・地場産業や祭り、播州弁（ことば）が 10 代の意見に多くあることに嬉しく感じた。確かに地形や地場産業、歴史は同じ５市１町でも異なることが多いが、ことばである播州弁は、基本この北播磨地域ではどこも同じ共有した部分であると再確認した。 **〇外国人から見る残したいモノ** ・外国人住民の意見で、寺などの伝統的なものを残したいという意見がある。見る人によってそのものの価値は異なるという視点で、何を残していくべきかを考える必要がある。 **〇⇔なくしたいこと** ・**「伝統という言葉だけにとらわれたものはなくしたい」**→どのようなものかその区別が知りたい。 ・なくなってほしくないことの質問に対し、敢えてなくなってほしいとの回答が「祭り」や「村社会」と２つありました。一方で、祭りや人とのつながりを残したいとの回答も多数あり、この項目については、意見が分かれている。 **【誇り】** **〇江戸や京都よりも古い歴史的資産** ・**「江戸、京都よりも古い歴史・文化がゴロゴロ～可視化したい」**という意見について、江戸や京都に匹敵するような有力な観光資源・歴史的価値となり得るならば面白いと感じました。**※可視化は大切** **〇地域資源の再発見** ・意見の中に「伝統」や「古い歴史」というワードがある。自然環境と歴史の中で歴史的ストーリーがあり深堀りすることで、この地域の新たな誇りが生まれる。

地域振興関係「残したいもの・誇り」

地域活性化・地域づくり

【残したいもの】

〇人との繋がり

・年齢があがるにつれて，人とのつながりやコミュニティの回答が多くなるが，若い世代のそれらへの興味はやはり低い。

・自然環境や人とのつながり、暖かさについては残っていってほしいと多くの方が思われているのは住みよいことの象徴だと思います。

〇資源を継承する人づくり

・第一が自然環境。各地区にある歴史的建造物・街並み・地域の祭りを残していく。

・第二が地域の活性化・地域づくり。各地区の釣り針・そろばん・金物・織物・酒・山田錦等々基幹産業残していく。今後受け継いでくれる若者・青年の気概を育て、能力を発揮してくれる場所と人づくりが必要。

〇豊かな自然で生き生きとした暮らし

・地域の活性化・地域づくりを望む意見が多いということは、北播磨地域の住民が、現在の豊かな自然で生き生きと暮らせている、満足しているということがうかがえる。人口減になっても、自分たちの住む地域に誇りを持って暮らすことができるよう、行政としては、地域づくりや伝統文化の継承を側面支援していく必要がある。

〇適度な距離感の人間関係とは

・「適度な距離感の人間関係」→時代によって適度な距離感が変化すると思うが，その境界線が知りたい。

※日本全体の課題であるが、北播磨の場合はどうなのか？

〇適度に住みやすい環境

・20 代の意見で、適度に住みやすい環境という意見があることについて、将来の担い手である若者が、住みやすさは適度で良いと感じている背景に何があるのかを今一度考え直す必要があると思う。

〇⇔なくなってほしいもの

・「無くなって欲しいもの」もいくつか書かれていた。「ポイ捨て、空き家、不平等、うわさ、おせっかい」排他性差別などである。どれも無くなって欲しいものであるが、なかでも「うわさ、おせっかい、排他性」は田舎独特の都会の人には苦手な感情である。

・村にもよるが田舎独特のわずらわしさが時として移住を難しくしたり、折角移住しても出ていってしまったりということになりがちである。長年住んでいるものには便利なことであったりするのだが、やはり外に開かれた明るい田舎にしていく必要がある。

【誇り】

〇人との繋がり（残したいもの）＝誇り

・設問３の「残していきたいこと」に現れる内容が、当然のことながら「誇り」になっている。地域住民の誇りやある意味の自尊感情は、地域の活性化にとって重要な要素である。

・地域活性化、地域づくりを誇りに思う人が多いのは、地域の人と人とのつながりが深く、人間関係が良好なことを反映していると思う。

・10 代から 20 代の若い世代にとっては、播州三木の祭りや加西市の節句祭り、五百羅漢や鶉野飛行場、地場産業、敬老の日発祥の地であること、ゴルフ場など、自然が豊かそして人との繋がり地域の繋がりが誇れるところ。

・40 代以上になると、地場産業よりもやはり自然が豊かなところ人との繋がりがあるところ。

〇住みやすい北播磨への共生

・歴史や伝統に関わる文化・遺産の整備を進め、可視化したり、知られるようになることは、今後の北はりまへの人の注目に繋がります。豊かな自然に加え、人々の営みが伝えられるようになるとよいと思います。30 年後でも、変わらない自然豊かで歴史ある北はりまと、新しいテクノロジーに支えられたより住みやすい北はりまの共生が求められていると思います。

・地域の活性化・地域づくりを望む意見が多いということは、北播磨地域の住民が、現在の豊かな自然で生き生きと暮らせている、満足しているということがうかがえる。人口減になっても、自分たちの住む地域に誇りを持って暮らすことができるよう、行政としては、地域づくりや伝統文化の継承を側面支援していく必要がある。

〇北播磨の強み

・都市部から近く、自然環境が良く住みやすい、地域住民の絆を感じる。この意見が多かった。このことが、北播磨地域の大変な強みであるが、この２つを維持し守り続ける仕組みを、早急に検討していく必要がある。

〇地域づくりシステム

・30・40 代の意見に出てくる「ほどよい田舎」「ちょうどいい田舎」

「田舎すぎず、都会でもない」

→「本当の田舎」にややハードルを感じる地域外の人間からすると、魅力的なキーワードである。血縁・地縁・社縁以外のコミュニティの縁をどう築くことができるか？そうした場や仕組みづくりにたいするゆるやかでオープンな雰囲気はあるのだろうか。生き方・働き方・暮らし方の柔軟なスタイルとして二拠点居住やリモートワークのリアリティが増す中、立地の点からも北播磨地域に可能性を感じるため、可能ならば掘り下げていただきたい（関係人口の議論から）。併せて外部の視点も必要である。

・30 代以下と 40 代以上で感じ方が大きく違うところ。30 代以下は自然環境、40 代以上は地域づくりの傾向は、北播磨地域では 40 代以上になって自治会活動などを通じ地域活動に参加することで地域づくりを意識するシステムが出来上がっているのかも知れない。

・地域に於いては“向こう三軒両隣”の付き合いがある所がありますが若い世代にもこの地域のつながりを持ってほしい。良い物は古くても残していってほしい。この共助は災害の時にも大いに役立つ。

・若い世代が自然環境に誇りを持っていることは意外であった。

40 代以上の年代では、地域活性化に関する意見が多いことは新型コロナウイルス感染症が影響していることがうかがえる。

〇「ほどよい田舎」「田舎すぎず都会でもない」※大切なキーワード地域の戦略

・北播磨地域を「ほどよい田舎」「田舎すぎず都会でもない」と表現する 30・40 代が多い。それらが「住みやすさ」とどのように関連しているのか（していなのか）を明確にすることで、定住人口の増加だけではない地域の戦略を考えられるのではないか。

【モデル提案】

・三宅は，地域は一部の定住者（愛着のある住民？）がコアで運営

し，その周りを魅力や愛着を感じる外部の人が循環するモデルを提案している。この考え方に倣えば，愛着が薄い人は他地域に出て行き，逆に他地域から魅力を感じる人が流入することになる。これを「ラウンドアバウト型地域づくり」と称して，そのあり方の研究を進めている。

海外だと住まい（住宅）の流動性が高く，入れ替わり立ち替わり居住者が変化する。日本ではまだ住宅の所有の意識が強いが，次代においては，選択的な住まい方と地域管理につながるか？

〇「北播磨地域の一体化」の検討

地域振興関係「残したいもの・誇り」

地域活性化・地域づくり

・どのアンケート記述も、自分の生活している地域に対する深い愛情を感じるものでした。愛があってこそ見える景色を見ている、という印象です。各地域の重要性や特性を意識しながら、「北播磨地域の一体化」が外にアピールできる方策が検討されるべきであろうと考えます。
例えば設問２に示したような、学校の校外学習・研修・見学や修学旅行先として５市１町の各担当者が協議し、一体的な典型プランを学校や旅行会社に提案することで、来訪と宿泊のきっかけを得られ、継続性や広がりも期待できるのではないでしょうか。

・以下のアンケートの率直な意見から、ビジョン 2050 を策定するには大きなハードルがあるが、10 代と 40 代、50 代の方たちが真剣に考えて期待感からの率直なお言葉であると考えると多くの課題が浮かんでくる。市町が連携協力して、また北播磨圏域で大きな力にして住民の方々と共に取り組んでいかなければならない。
物語を作ることで愛着がうまれ誇りが生まれる。その積み重ねが大きな力となって脱皮することができる。豊かな自然を対象とし民間の施設も視野に入れた大きなブレークスルーが求められている。

「よくも悪くも誇るほどの物もあまりない（40 代）」
「昔と何も変わっていない、チャレンジ精神が無いように感じる（40 代）」
「地場産業は衰退し歴史は語り継がれていない、魅力や誇りは
減っている（40 代）」
「個性が薄く観光したいと思わない。帰省したいと思う魅力も少ない。一部の人間のみの郷土愛が強く私達のような世代は北播磨にどのような魅力があるのか、どんな職場があるのかわからないため、将来もこのまちに残ろうと考えている人は少ないように感じる（10 代）」
「行政が括った北播磨地域には住民が共有できる物語はなく、北播磨地域に誇りを感じることはない。一方自己の生活圏の歴史や風土には誇りは無いが愛着はある。(50 代)」
「北播磨のことがよく見えていません。(50 代)」
「中途半端な田舎（40 代)」
「今回このアンケートを通して北播磨の未来について考えさせられました。このアンケートを知らない他の友達は北播磨の未来など気にも留めていないでしょう。(10 代)」

・北播磨の地域性、文化を息苦しく感じている 10 代の意見が気になった。全体として地域のつながりを大切にしていきたいという意見が多いが、居住地域によって温度差があり、各自治会、あるいは、市町村の競争ではなく連携の必要性を感じた。

〇キャリア教育は必要か

・「北播磨にどのような魅力があるのか、どんな職場があるのか分からないため、将来もこの町に残ろうと考えている人は少ないように感じる。」という 10 代の意見について→
※「地元にある」だけでなく、「地元にいるままでできる」仕事について考えてみる必要がある
例えば高等学校においては、職業学科であれば、インターンシップや地元の企業との連携等、教育の中で地元の企業について知る機会はあるが、普通科の進学校であれば、就職希望者でない限り企業への関心は少ない。行政がパイプ役となり、将来を見越しての企業の PR となるようなキャリア教育を提案する必要があるのではないか。

〇「雇用・働き方・教育」等の関心が少ないのはなぜ

・自然環境、農業・食、地域のつながりなど心豊かな生活ができる魅力が多くみられ、住民の方々の誇りや自信が感じられる。一方で、観光、産業、雇用、働き方、教育等に関する回答が相対的に少なく、若者に直接響きそうな要素が少ないことが気になる。

・地元愛にあふれたリーダーを育成することにより、彼らに影響を受けたＵターンやＩターン組が増えるのではないかと思う。一方、「雇用・働き方」についてはゼロ回答であることは残念である。

〇10 代の北播磨に対する意識について思う

◎地域活性化・地域づくりに関する 10 代（NO.25・36・37）の北播磨に対する意識に関する意見。
→率直な意見だと思われる。北播磨の今の姿と自分自身の今後の人生（学ぶ、働く、暮らす、楽しむ等）が重ならないということなのか？特に「優秀な人材の流出」という言葉、および当アンケートに回答していない若者の思いが気になる。

※(NO.25)今回、私はこのアンケートを通して、、北播磨の未来について考えされられました。ですが、このアンケートを知らない他の友達は、北播磨の未来など気にもとめていないでしょう。意識改革が必要だと思います

※(NO.36)個性が薄く、観光したいと思わない。帰省したいと思う魅力も少ない。一部の人間のみの郷土愛が強く、私たちのような世代は北播磨にどのような魅力があるのか、どんな職場があるのかが分からないため、将来もこのまちに残ろうと考えている人は少ないように感じる。
住んでいる私たちが知らないのであれば他県の人はもっとわからず交流も少なく、まちを豊かにする優秀な人材も流出してしまう。もっと取り柄をみつけ、それを広くひろめることが 30 年後の発展につながるのではないかと思う

※(NO.37)誇りは地場産業や自然が豊かなこと、地域の人たちが優しいことです。私が感じることは、将来都会に行きたいという人が多く、この地域の良さに気づいていない人が多いということです。

交通インフラ

【残したいもの】
〇残していくために必要な対策

・なくなってほしくないことで、「鉄道」との意見があるが、交通インフラへの不安に関して、これからますます高齢化していく現状で、下支えしていく費用と手段、こちらは早急に対策が必要なのかな？と思いました。

・人口減少下において、行政の力だけでは、公共施設や交通インフラ、産業などのあらゆる分野を現状維持してくことは難しく、アンケート結果を適正に集約しながら、まちをスマートシュリンク（賢い収縮）させていく方法を検討していく必要がある。

暮らし関係「残したいもの・誇り」

	アンケート結果に対する委員意見
子育て・教育・健康福祉・高齢者問題・少子化	**〇経済的負担の軽減** ・10 代(小野市)の回答者から「高校生までの医療費の無料化」で精神的負担の軽減が図られている旨の記述が見られ、経済的負担の軽減が暮らしの中での安心感につながっていると実感できた。 ・家を建てて永住するところとして北播磨を選んでもらえるよう、医療を受けやすく、子育てをしやすくという意見について、移住・定住を考える際の選定基準として、医療体制や子育て支援に対する意識が高いことが見て取れる。
自然環境	**【残したいもの】** **〇若い世代も自然環境に関心** ・自由記述の設問でありながら、10 代の回答者において、「自然・環境」分野に関する記述が他の世代よりも割合が多くみられ、地球環境・自然環境に対する意識の高さが窺えた。 ・「自然」はどの年代でも関心ごとであり、「自然環境」を保つことは自分たち命を守ることであると思う。 ・20 代の意見で、「残していきたいのは、北播磨らしい自然。都会を追わず、らしさを守る。」という意見があり、将来を担う若者が、利便性よりも自然を重視しているという点は、今後の北播磨地域のあり方を考えるうえでポイントとなると思われる。 ・今後も、北播磨の自然環境を守る取組が必要である。 **【誇り】** **〇若い世代は自然環境を誇りと感じている** ・自然環境を誇りと感じている若い世代が多く大変嬉しいかぎりです。 ・10 代から 30 代は**「自然環境」(※大事な視点であり便利さを共存すること)**がトップであり、視覚的視点なのかと感じた。同じ自然の意見の中でも、緑や桜、空気など具体的な事項があるところに、地元への愛着や暮らす豊かさを精神面でも感じているのかなと思う。 **〇自然環境維持の重要性** ・これからの将来を担う若い世代が自然環境に関心を持っていることで、山林整備や農地維持の重要性を感じた。 ・「残していきたいこと」「自然環境」がどの世代でも多いことに少し驚きを感じた。北播磨内でも地域性に幅が広く、地域によれば四方に自然が残っている田舎地域もある。その自然(山林)の維持に費用がかさみ過疎地域への推進を加速しているケースもある。しかしこのアンケートからいくと自然を「残したい」「なくなってはいけない」という 10 代も多く、どう守っていくべきかを改めて考えることの必要性を感じた。
防災・安全安心	
多文化共生	

産業関係「残したいもの・誇り」

	アンケート結果に対する委員意見
雇用・働き方・商工業	**【残したいもの】** **○ 地域産業・伝統の継承** ・地域に人が残れるためには何よりも産業（雇用）が大事で地域の継承者がいなければ、伝統文化も歴史も残らなくなるという意見は、まさにその通りだと思いました。 新たに産業を創っていくのと同時に、地域にある伝統産業でも雇用を生み出していけるように取り組みが必要では？と感じています。 ・地域に人が残る為には、産業（雇用）が大事で、地域の後継者・継承者がいなくなれば、伝統文化も街並み・地域の祭り・歴史的なものも残らない。すべてに共通することなのでその通りだと思う。 ・産業に関しては、自然を残しつつ、地場産業の継承と、日本を代表するような産業が育ってほしいとの意見が多いように思います。
農林水産業	**【残したいもの】** **○ 北播磨のブランド** ・ブランド酒米「山田錦」など、アドバンテージをもつ農産物がある。 **○ 農業の後継者、兼業農家** ・農業は残って欲しいが後継者がいないとか、大農園化ではない農業(兼業でも)を残すべきだとの意見もある。後継者確保の旱天からも、個別の兼業的働き方のまま、その個人を組織的に統率・運営して、農家の大規模化と同じ効果を得られる方法が、将来的には見込める。 ・国は大規模農家を育て企業に農業を移転することを進めているがこれでは農村が脆弱になる。コメ作りは以前のような兼業で良いのではないかというご意見に賛成する。コメだけでなく野菜も多くの家庭で栽培するようにできないものだろうか。大規模農家や企業と共存すればいいのである。 年々何ヘクタールもの農地が消えていくのは寂しいものである。先進国では最低の自給率を改善しなければならない。これだけ豊かな自然に恵まれそれを愛する住民が多数存在し大阪・神戸に近い北播磨ならではの利点がある。農業は儲からない斜陽産業だという固定観念から抜け出し北播磨再建の切り札にすることも可能と考える。 ・「残していきたいこと」が活性化の枷にならず、活性化と共存し得る方策を考える必要がある。例えば農業に関しては、後継者確保の観点からも、個別の兼業的働き方のまま、それぞれの個人を組織的に統率・運営して、農家の大規模化と同じ効果を得られる方法が、将来的には見込める。 現に住んでいる人にとって快適で利便性の高い状況・環境が、地域外の人にも魅力的で、目を向け、観光・レジャーや居住の地として候補としたくなるものだと思う。 **○ 生産者目線** ・食の豊かさを残したいという意見が多い一方、そのためにどうするかという意見はなく、あくまで消費者目線であるように感じる。生産者の実情を知ってもらうような取組も必要ではないか。
IT テクノロジーの進歩	